

令和8年度当初予算 主要事業

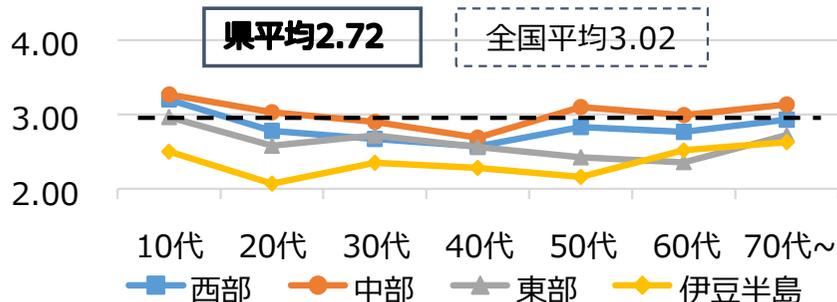
資料2-1

事業名	地域公共交通「静岡リ・デザイン」推進事業費(新規)	予算額	R8	5,900万円	担当課(室)	R8	建設政策課 (内線3396) 交通政策課
			R7	－万円 (2月補正3,400万円)		R7	建設政策課 (内線3396) 地域交通課 (内線2852)
<p>1 事業目的 公共ライドシェア等の全県展開による交通空白の解消のため、乗降データ等を活用して最適な地域公共交通の再構築(リ・デザイン)を行う。</p> <p>2 事業概要 (単位:万円)</p>							
区分	内容					R8当初	
地域公共交通のリ・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 人流データ等の分析・活用 ドライバーバンクの設置 公共ライドシェア運転手情報のデータベース化(広域利用) 市町支援(立上げ支援) 補助率:1/2 補助上限:150万円 補助対象:保険料ほか 自動運転実装支援 					3,900 (R7.2月補正) 1,400	
公共ライドシェア等広域共同運行管理の推進	複数の市町が共同利用できるシステムを構築し、運行管理を効率化					(R7.2月補正) 2,000	
地域交通人流データの取得	人流データを取得し、交通政策の検討に活用 ・県内35市町分					2,000	
計					5,900 (R7.2月補正) 3,400		

移動・交通 — 地域公共交通のリ・デザイン —

主観指標

Q 公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動できる



<県内乗合バスの推移>

区分	運行路線(系統数)		伸び率 (%)
	2013	2023	
事業者	1,675	1,324	△21.0
市町自主運行	288	412	+43.1
合計	1,963	1,736	△11.6

分析

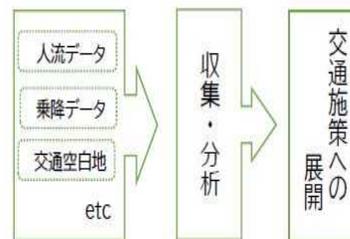
- 静岡県の移動・交通分野の数値は、年代、地域別を問わず満足度が低い
- 乗合バス路線の全体数は減っているが、市町自主運行バスの割合は増加
- 事業者が単独で維持できない路線は補助金や市町による運行で対応しており、将来的に立ち行かない

政策立案

- 乗降データ等を収集・分析、活用した交通施策を展開
- 単独市町及び市町の圏域を超えた広域共同運行による公共ライドシェア等の展開支援
- 自動運転の実装のため、国補助を活用する市町へ県より上乗せ補助等の集中支援を行い、ロールモデルを形成し、全県へ展開

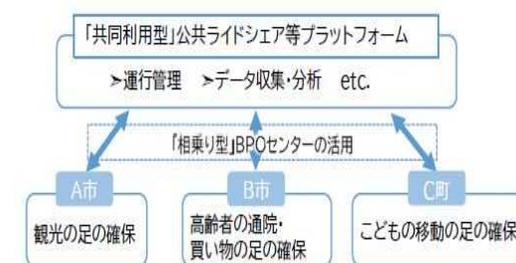
○データに基づく交通分析

人流データや交通事業者が所有するデータ等を分析し、県内交通の最適な役割分担を整理



○公共ライドシェア等共同運行管理

公共ライドシェア等の実施に必須となる運行管理について、民間のノウハウを活用し、市町が共同で利用できるプラットフォームを構築



○自動運転実装化支援

自動運転バスの早期の社会実装を目指し、先進自治体の実証実験を財政面から支援

- R8は新富士駅～富士駅間で実証実験を行う富士市を支援
- ロールモデルとして県内各地域で自動運転サービスを展開



▲自動運転バス (イメージ)



▲路車協調システム (イメージ)

**地域公共交通「静岡リ・デザイン」
推進事業費 (新規)**

93百万円